

## 「建国記念の日」に思う

### 1. 日本の現実

右掲は街の家々が国旗を掲げている様子です。旗日と言って国民の祝日に掲揚していたが次第に正月や建国記念の日に減りさらに掲揚しない傾向が強まっています。国民の祝日は単に祝日化して休日となって来ている感じがします。



その国民の祝日の中に「建国記念の日」があります。他国では、建国記念日と明記するが日本では建国が明確でない事情があり、明治政府が維新直後の明治6年(1873年)に2月11日を「紀元節」に制定しました。初代天皇の神武天皇が即位した「辛酉年春正月庚辰朔」は西暦で紀元前660年2月11日にあたるので決めたという次第です。「日本書紀」の記述から皇紀があり令和5年は皇紀2683年にあたります。

日本は島国で他国に駐留されても占領支配された事がない、かつ、古代の豪族間の争いがあった物の「建国」自体が島国で「日の本の国」状態で不明確な状況のまま天皇家が豪族支配して大和朝廷を築いた訳ですが、その後、武士の時代になっても朝廷は維持され、明治維新で大政奉還され権力が天皇に戻り、天皇を君主として祭る新政府ができたのです。立憲君主制ではあるが天皇を政治利用して国力の発展を果たしたが国際的に行き詰まり第二次世界大戦で敗戦しました。連合国に進駐されたが天皇は新憲法でも権限が限定されながらも象徴天皇として温存され立憲君主制の民主主義国家になっており、今上天皇は126代という事です。

「開かれた皇室」と言われるように皇族が一般の人と同じような生活を望むようになり教育の面では学習院一辺倒ではなくなり広く交際するようになりました。現上皇が正田美智子様と結婚されたのがキッカケになり、皇族方の生活様式が変化して広く一般社会と関わり情報が飛び交うようになりました。秋篠宮様は情報発信を望んでおられ皇族から発信するSNSを検討されているとの事です。情報が増える事は皇族が特殊な存在ではなくなるという事で英国の王室のようなスキャンダルがマスコミに取り上げられるようになるリスクを孕んでいます。

### 2. 専制主義とオープン化

一方、諸外国に目を向けると民主主義と専制主義に大別されます。民主主義では選挙で政権が代わり、政権内でも人が代わって行きます。一方、専制主義ではロシアのプーチン大統領が専制主義で長期政権化し、中国も習政権が長期政権化を目指しています。専制君主では北朝鮮が身近なところにいます。共通するのは「強国」を目指して軍事強化を優先する事です。その結果、内政がうまく行かなくなるが、その度に外国に国民の眼が行くようにすり替える事が共通しています。また、「理不尽」という言葉がありますが、国内向けに理不尽な事を行なっても権力強化でそれが罷り通るのです。

専制主義では情報管理が厳しくなるのが一般的で政権による検閲などが実施されるようになります。日本では「開かれた皇室」に代表されるように情報はオープンであり、民主主義に沿った意見の発信が可能になっていますが、専制主義では政権の検閲によってコントロールされた情報のみが発信されるようになります。情報が偏ることで政権に都合のよい事ばかりが知らされるのでいわゆるプロパガンダという状態になります。現在起こっているロシアとウクライナの戦争やコロナ感染に関する中国政府の発表がプロパガンダとして政権都合の情報発信となっていますが、SNS時代で一般の方が広く海外からの情報に接する時代になり「真実」を知る機会が増えています。SNS情報を検閲して統制をかけようとするが情報量が多くて困難になっています。その結果、権力を行使して情報発信者を拘束したりしていますが、世界から丸見え状態なので独裁度合いを天秤に測りながらという状況になっています。

### 3. 「国」という認識

民主主義も専制主義も情報の発達でオープン化に晒されています。このオープンの度合いに応じて「国」という認識に影響が出ています。日本は中国の台湾問題やロシアの北方4島の軍事基地化などで脅威に晒されていますが、ロシアのウクライナ侵攻によって「力による一方的な現状変更」の危機がクローズアップされています。岸田首相は今までタブーであった防衛問題に踏み込んで防衛3文書を改訂し閣議決定しました。「敵地攻撃」などの問題を含み自衛隊の装備を改める予算案を決めました。まだ、塗り絵の枠取り状態だが、これを公表して既成化を図り計画と予算を決め塗り込んで行く方向です。

戦後78年になるが「憲法改正」を長年の課題としながらも歴代の首相は踏み込まなかったが、昨年米ペロシ下院議長の台湾訪問で起こった中国の威嚇に対応して岸田首相は尖閣防衛を始め自国民の防衛に関する認識を強化したのです。日本では未だに「憲法9条があるから」という勢力がいるし戦争拒否の意識が強い状態があります。仮に、中国の台湾進攻が始まるとすると必ず尖閣が絡み自国防衛が大きな課題になります。さらに、ロシアとウクライナの戦争のように長期化すると日本領土防衛に拡大すると想定されます。最悪の場合、ロシアが北方4島から同時侵攻をかけ北海道の自衛隊が釘付けになり応援が必要となる事も考えられます。

「憲法9条」信者の方がいるように不戦論者が沢山おられます。ある方が「戦地に息子を送れますか？」と尋ねられましたが、ウクライナと同じで戦地は国内なのです。「女・子供」をアメリカなどに避難させたとしても男子は年齢に関わらず徹底抗戦の気構えは必要と思います。尖閣から北海道まで日本なのです。ウクライナの方々のように「国」を守るという気構えが必要と思いますが、若い人たちはどうなのだろうかと危惧します。

### 4. 伝統ある美しい国「日本」

ダーウインの「種の起源」がありますが大自然の法則は「弱肉強食」を原則として「流れ」として「進化論」があると考えられます。随分な論理の飛躍をしますが「日本の起源」と読み替えると島国で単一民族のように見えるが南方系と北方系のせめぎ合いがあり、豪族間の争いがあったと言えます。しかし、少なくとも皇紀2683年と言われる大和朝廷が頂点として有史以来君臨して来た126代にわたる天皇制が続いた事実があります。

鎌倉幕府から江戸幕府まで武士の政治が続きましたが、その間も天皇が君臨していた事実があります。皇族も覇権を求めた歴史もありますが多くは王道に徹して武士からも尊敬されていたのです。人間の世界は人口増による飢えとの闘いで戦争の歴史を繰り返してきたが、日本も同じ条件ながら天皇を頂いて社会が成り立ってきた歴史があります。正しく「王道」と言えます。この歴史が明治以降も引き継がれ現在は象徴天皇として君臨しているのです。

世界人口は大爆発で1950年は約25億人、2000年に約60億人となり2023年は約80億人に達すると言われるほどに急拡大しています。隣国の中国は1947年に約4億5千6百万人、1995年約12億1千1百万人、2022年約14億人と拡大して「一人っ子政策」が効いてピークを過ぎたと言われてはいますが、裏事情がある国なので事実是不透明です。少なくとも世界も中国も1950年から70年間で3倍になっているのです。「飢餓」が引き起こす貧困で世界中で紛争が絶えない事実があります。この背景の上に専制主義の弊害で国内問題を海外との争いですり替える事が頻繁に行われています。この歴史を繰り返して来たのでロシアのウクライナ侵攻のように中国の台湾進攻が現実味を増しているのです。

「平和ボケ」と言われた日本の政治が手続き問題があるにしても自力防衛への舵を切りG7初めとして民主主義国家に共感を持って迎えらるるようになったと実感すると共に国民は「どうする家康」のように窮地を前にして覚醒して自力防衛に向かうように願います。

【AMIニュースのバックログは <http://www.web-ami.com/siryu.html> にあります！】